Think サイクリング山口◆紅葉の自転車さんぽ 2022

＜＜雑感的総括＞＞

まず今回の秋の緊急企画に、ご参加、ご協力を頂いた皆様に感謝申し上げます。そして年末年始を跨いだ報告になり申し訳ありません。

また今回の秋の緊急企画は、山口きらめき財団の「きらめき活動助成事業」に、“Think サイクリング山口”と“廃校再生サミット／山口”からの申請事業が同時採択された後、企画調整をする段階で、前者は採択直後に事業内容変更届けを提出し、後者は募集チラシ印刷直前にコロナ禍で中断・中止となり、双方で予定していた連携企画が白紙となり、その対案として実施したものです。

そのため“消極的な姿勢”があったのは否めないものの、目的は明確で、ひとつが連携企画としての体験参加やノウハウの共有、もうひとつが学習トレジャーの模擬実施でした。

それでも限られた準備期間の中、全てがスムーズに進む訳も無く、連携企画の調整や、事業内容再々変更申請で、日程が定まらず、チラシ作成がズレ込み、小回りが効くよう最少人員で準備運営が出来るようにしたのが、良かったのか悪かったのか、判断し辛い「スタートアップ企画」でもありました。

その上で目的等に対する評価になります。

狙いの１／連携企画は一勝一敗一分！

同時採択時の事業計画では、「自転車さんぽ◇阿東」と「コマ地図ブルベ◇美祢長門」への体験参加や運営協力としていたものが、秋の緊急企画は「プレライド亀山」が別枠実施に、「いろどり長門」は諸事情中止に、そして関係者の体験参加や運営協力は微妙な結果で、ノウハウの共有には至っておらず、この評価としました。

狙いの２／模擬実施は結果オーライだったが？

当初より予定の提案型ソフト「学習トレジャー山口」の模擬実施は、調査段階で一抹の不安がよぎり、降雨予報で参加キャンセル⇒検証走行となったのはある意味ラッキーでした。しかし、約３時間の反省会を行うほど、新たな気付きや修正箇所が噴出し、修正版のマップ＆問題を作成し、再度の検証走行を考えているところです。

狙いの３／予期せぬ反応に喜びと戸惑いが！？

チラシ配布の狙いは参加者に対する呼び掛けはもちろん、関係者に対するメッセージへの反応にも期待する部分があり、取材の申し込みがあったのは素直に嬉しく思いました。しかし、先方からの「今の自転車ブームに水をさす行為では？」の投げかけに、答えが無かったのも事実で、それも意識しながらの検証走行となりました。

そして雑感的総括としては、緊急企画後の意見交換や取材も含め、我々の活動に対する喰いつきは間違いなくあることを認識できた訳で、それ故に春企画の見直しは必須であり、自転車ブームに水をさすのではなく、乱立気味の今の日本の実情に横串を通す風穴を開けるために、地域貢献型マルチサイクリングクラブのネットワーク化の必要性を先行山口として実証することと考えます。

但し、設立趣意書の方向性に沿って進めるための実証実験予算をどうするかが課題です。

自転車補助看板と応用全体集計と！？
秋の緊急企画に並行して春企画「スクールズ 2023 プレ企画」の企画書を作成予定でしたが、それを先送りにする中、見直しの必要性が浮上しました。その根拠の画像資料と、修正春企画の方向性になります。

まず見直しの根拠の一丁目一番地に「学習トレジャー山口」の検証走行で痛感した“曖昧な交通ルール”があります。それに、検証走行で目撃した「インフラ整備」の手のひら返しが二番地として、そしてサイクリストの聖地で意見交換した「ソフト提供」の乱造が飛び地としてあります。

『曖昧な交通ルール』は、交差点の構造、自転車の通行帯、そしてそれらに関する標識に散見され、学習トレジャー山口の当日使用マップで示すなら、TP・D 七尾山交差点の正しい自転車の通行方法は？、TP・G 訓練場前の歩道と車道はどっちが正解？、TP・Z パークロードの各交差点と地下道のバラバラの標識はどれを信じれば良い？等々、TP クイズに採用した以外にもゾロゾロ・ゴロゴロ状態で、路上で正解を学ぶコトは困難で、間違い探し状態になり、より一層の実証実験の必要性を感じたところです。

『インフラ整備の手のひら返し』は、上記の補足にも等しく、TP・O 平川大橋南詰交差点において、昭和に整備された山口秋吉台自転車道と、平成に指定されたサイクル県やまぐち・サイクルルートの設計思想の違いに、それが如実に表れていて、昔は無理やり歩道走行、今は原則車道走行で、我々の守備範囲とする「ホワイトサイクリング」はどちらを取れば良いのだろうと、迷いが生じているところです。

『ソフト提供の乱造』は、見直しの根拠と言うよりは、現状の認識であり、行政主導の自転車ブームは梯子を外される可能性があり、一方の愛好家の好むグレーゾーン企画は世界基準との摺り合わせが必要であり、それらを俎上に乗せる「自転車版ウインターミーティング」の必要性を改めて感じたところです。

そして修正春企画の方向性としては、「春需で情報発信」をベースに、学習トレジャーの実証実験を「スクールズ 2023 プレ企画」にどのように組み込むかに尽きると考えています。そのため複数の展開案を提示して、総会の扱いも含め、皆さんの意見を聞きたいと思っていますので、宜しくお願い致します。

2023/01/01/09:46（事務局企画担当：石丸）